

高等学校 外国語科

コミュニケーション英語Ⅱ（４年）単元名:「英語で駅の乗り換え案内をできるようになる」

府立布施高等学校（定時制の課程） 授業者 教諭 日野 雄太

I 単元を通して育成をめざす資質・能力

【めざす生徒の学ぶ姿】

- ・授業で定められたコミュニケーションの目的・場面・状況を、「自分事」として捉える。
- ・駅で困っている外国人観光客に対して、電車の遅延・運休状況等をふまえ、目的地に行くための電車の乗り換え方法を英語で説明することができる。

【学習指導要領(平成30年告示)との関連】

「英語コミュニケーションⅠ」〔知識及び技能〕(1)ウ 〔思考力、判断力、表現力等〕(2)イ

知識及び技能	駅案内等を行うため必要な慣用表現等を身に付けることができる。
思考力、判断力、表現力等	話し相手の要望を聞き取り、路線図や電車の運行状況をふまえた上で、目的地に行くための電車の乗り換え方法を英語で説明することができる。
学びに向かう力、人間性等	話し相手の要望に応じて目的地に行くための電車の乗り換え方法を英語で説明するために、路線図や電車の運行状況をふまえた上で、間違いを恐れずに既習の表現を用いて即興でやりとりをしようとしている。

II 単元計画(資質・能力育成のプロセス) 全5時間

時	めざす生徒の姿	学習活動・学習内容	教師の支援・指導 (★深い学びを生み出す工夫)
1	外国人観光客を駅の適切な出口へ案内することができる	<p>○既習の慣用表現を用いて、外国人観光客を適切な出口に案内する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の慣用表現 It's that way, It's over there の確認 ・道案内に関わる語彙の確認。ペアで単語カードカルタで練習。 ・ロールプレイ ペアを適切な出口に案内。 	<p>○「外国人観光客が日本で困ったことランキング」を示し、この言語活動の必要性を気付かせる。</p> <p>○教室に各出口を示す「A1」～「C5」と書かれた紙を9つ貼る。</p> <p>★「駅で困っている外国人観光客を君達が助けられるようになろう！」という具体的で実際におこりうる課題を設定し、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識した活動を行う。</p>
2	外国人観光客に電車の乗り換え方を案内することができる	<p>○電車の乗り換え方を説明する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗り換え方に関わる語彙、慣用表現の確認。ペアでポキャブラリーゲーム。 ・ロールプレイ 路線図を用いて、ペアの目的地に応じて乗り換え案内を行う。 	<p>○まずは「路線はline」であることを覚えさせ、その後の活動につなげる。</p> <p>★学校の最寄り駅を起点とした実際の大阪府の路線図を用いて、観光地への乗り換え案内の練習をさせることで、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識した活動の中で、既習事項を活用させる。</p>

ポイント①

3	アメリカの駅にある英語で書かれた電光掲示板を読むことができる	<p>○英語で書かれた駅の電光掲示板の情報を読み取る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューヨークの地下鉄と長距離列車の説明を聞き、海外の駅や列車についても理解を深める。 ・英語で書かれた駅の電光掲示板から必要な情報を読み取る。 ・ロールプレイ 電光掲示板の情報を読み取りペアに電車の運行状況等を説明する。 	<p>○プロジェクターでアメリカのイラストや写真を写し、アメリカへ旅行に来たかのようなイメージを持たせる。</p> <p>○電光掲示板の出発時刻や遅延情報等を読み取ることの重要性を説明する。</p> <p>★目的・場面・状況等のある中で、読み取った情報をもとに、話し相手に情報を伝える統合的な言語活動を行う。</p>
4	外国人観光客に電光掲示板の内容を踏まえて電車の乗り換え案内をすることができる	<p>○第1～3時の学習項目を用いて、外国人観光客に電光掲示板の内容を踏まえて電車の乗り換え方を案内する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの復習 ・ロールプレイ 電光掲示板の情報を読み取りペアに電車の運行状況等を説明する。 	<p>○復習のために教科書の対話の読み取りを行い、その後の表現活動につなげる。</p> <p>★目的・場面・状況等のある中で、この単元で学んだ慣用表現を、総合的に使用する言語活動を行う。</p>
5	外国人観光客に電光掲示板の内容を踏まえて、たとえ想定外の状況が提示されても電車の乗り換え案内をすることができる	<p>○第1～3時の学習項目を用いて、外国人観光客に電光掲示板の内容を踏まえて電車の乗り換え方を案内するスピーキングテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者（外国人観光客）の要望を聞き取り、電光掲示板の情報を読み取り、路線図や電車の運行状況をふまえた上で、目的地に行くための電車の乗り換え方法を英語で説明する。 ・授業中に扱った状況と併せて、授業中には扱わなかった「想定外のシチュエーション」に対して、これまでの学習活動を総合的に活用し、やりとりを行う。 	<p>○生徒を一人ずつ別室に呼び出し、スピーキングテストの目的、場面、状況を説明する。</p> <p>○プロジェクターでアニメーション付きの電光掲示板を映し出し、生徒に目的地を伝える。</p> <p>★目的・場面・状況等のある中で、授業中には扱わなかった想定外の状況も含めたスピーキングテストを行う。</p>

ポイント②

ポイント③

III 深い学びを実現するための指導の工夫

◆目的・場面・状況のある中で、具体的な目標を提示し、この単元に取り組む動機づけを行う（第1時）

「駅で困っている外国人観光客を君たちが助けられるようになろう！」という具体的で実際に起こりうる課題を設定し、生徒に「できるようにになりたい！」という目標を持たせる。また、既習の慣用表現だけでも案内できることを伝えて、生徒に取り組みやすくする。

◆既習の言語材料を活用して、統合的な言語活動を繰り返し行う（第2～4時）－知識・技能を習得、活用する－

コミュニケーションの目的、場面、状況等を設定したうえで、学習した慣用表現等を用いて、生徒同士のペアによるロールプレイを中心として、技能統合的な言語活動を繰り返し行う。また、「出口への案内」⇒「乗り換え案内」⇒「運行状況をふまえた乗り換え案内」というように、細かいステップを積み重ねることで単元の目標を達成できるよう計画している。

◆スピーキングテストで、想定外の状況を提示することで汎用的な資質・能力が身に付いたかを評価する（第5時）－知識・技能を活用する－

授業中に扱った状況をテストするだけでなく、想定外の状況（授業中は扱わなかった目的地への案内等）を追加質問として出すことによって、丸暗記だけでは状況を乗り切れないようにしている。想定外の状況において、これまでの学習内容をふまえて、応答せざるを得ない場面に遭遇することによって、生徒は汎用的な資質・能力が身についたかを振り返り、教師のフィードバックをふまえて英語でのやりとりや表現を向上させる。

IV 生徒はどのような学びを実現したか

○具体的に設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況を、自分事として捉え、「聞く」「話す」を中心とした技能統合的な言語活動を通して、既習の言語材料を活用して英語でコミュニケーションを図ろうとする

本実践では、駅で困っている外国人観光客に対して、電車の遅延・運休状況等をふまえ、目的地に行くための電車の乗り換え方法を英語で説明することができるようになることを目的とした。単元前は、「駅で困っている外国人を英語で案内できればよいのに」という思いは持っているが、実際にどのように案内すればよいかはわからない生徒がほとんどであった。生徒の「案内できるようになりたい」という願いを単元目標として設定した上で、スモールステップを踏んで、駅における案内の仕方を学び、生徒同士のロールプレイを中心とした技能統合的な言語活動を、ペアで繰り返し行った。また、第1時から一貫して、プロジェクターでリアルな電光掲示板を投射したり、実際の大阪府の路線図のラミネートを配付したりすることによって、生徒たちは教室を、実際のコミュニケーションの場として捉え、自分事として、言語活動に臨むことができた。単元末のスピーキングテストでは、授業で直接練習していない予期せぬ状況も提示されたが、大半の生徒が本単元の学習内容を落ち着いて活用し、適切にやりとりをすることができた。

ポイント①

第1時

単元におけるコミュニケーションの目的・場面・状況と単元目標を、自分事として捉える。

- 訪日外国人が旅行中に困ったこと
- 1位：施設スタッフとのコミュニケーション
 - 2位：無料の無線LAN環境
 - 3位：公共交通機関の利用
- ※国土交通省 観光庁 平成30年度



単元の導入として、授業者から上記のランキングを提示し、単元の目標である「駅で困っている外国人観光客を君達が助けられるようになるう！」と言ったところ、生徒より「それができたらカッコいい！」という発言が挙がった。実際のコミュニケーションの場面を提示することで、生徒の動機づけが行われた瞬間であった。

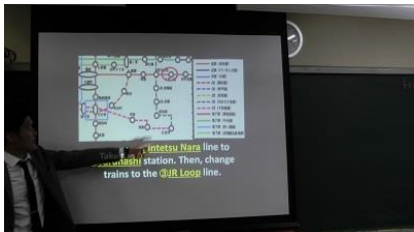
ポイント②

第2～4時

◆既習の言語材料を活用して、統合的な言語活動に繰り返し取り組む (第2～4時)

リアルな観光マップ、路線図、電光掲示板を用いて、コミュニケーションの場面を設定し、教師のモデルの後、表現の練習、ペアでのロールプレイを各時間行った。

第2時 大阪府の電車の路線図を用いたロールプレイ



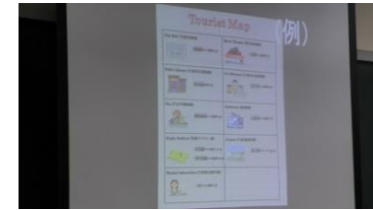
S1: I want to go to the aquarium.
S2: 水族館は大阪港から5分ということは…、
Take the…JR Loop Line to…Morinomia station. 何やったっけ、環状線の次
Change…Subway chuo line.

第3時 アメリカの駅の電光掲示板を用いたロールプレイ



S1: When is the next train to Boston?
S2: Boston が delayed やから、
えーと、
Five teen minutes is delayed.
T: The train is delayed fifty minutes.

第4時 大阪府の観光地と、電車の電光掲示板を用いたロールプレイ



S1: I want to go to the Airport.
S2: Sorry, Kintetsu Nara line … cancelled
…accident

授業者はココを見る！

外国人観光客に乗り換え案内を行うことを、自分事として捉え、間違いを恐れずに身振り手振りを使って英語で伝えようとしているか。ロールプレイの観察だけでなく、ワークシートでペアの相互評価をさせる。

ポイント③

第5時

◆スピーキングテストで、授業中に練習した状況だけでなく、想定外の状況を提示されても、既習の言語材料を活用して

英語でコミュニケーションを図ろうとする (第5時)

【生徒の発言】※太字は授業で学んだ言語材料

[現在地 天王寺 遅延なしの場合]

T: I want to go to this aqualium.

S1: **Take the Kanjo line**, and stop the **Bentencho Station, then change to Chuo Subway Line.**

S2: **Take the Kanjo-sen**, Bentencho…

and change the line for Chikatetsu Chuo line.

[現在地 八戸ノ里 遅延ありの場合]

T: I want to go to Morinomiya Station.

S3: **Sorry, Nara line is delayed… due to trouble.**

S4: **Take the Nara line. Train is late.**

⇒be 動詞の抜けや、前置詞の抜けはある生徒はいたが、ほとんどの生徒が一定回答することができた。状況を突破した生徒には、以下のような、授業では直接目的地としなかった場所への案内を求められたが、その全員が沈黙することなく場面に即した回答をすることができた。

[現在地 八戸ノ里 大阪城への案内]

S5: **Kintetsu Nara line… change Tsuruhashi station, then Osaka Loop line…Osaka-jo-koen.**

授業者はココを見る！

沈黙することなく、間違いを恐れずにやりとりしようとしたか、冠詞や前置詞などの機能語が抜けていたとしても、おおむね伝わる英語を使用していたか、事前に生徒に配付したルーブリックを基に評価する。

スピーキングテスト内容
教師：外国人観光客 生徒：案内する役
(状況：外国人観光客が駅で困っている)
S：May I help you?
T：I want to go to ~.
S：路線図と、地図を見て回答
T：Thanks for your help.
※生徒一人ずつをテストする



V 実践を終えて

授業者より

定時制の課程の生徒たちは、昼間は働いており、生徒の中には外国人観光客と接する機会のある者もいる。そのため、毎回の授業においては、具体的なコミュニケーションの場面を設定し、教室を実際のコミュニケーションの場として、ロールプレイを中心とした言語活動を行うようにしてきた。その結果、生徒の「話す」活動への抵抗感は低いが、「読む」活動については、特に苦手意識を有しているという課題があった。また、生徒を退屈させないために、これまではあえて短い単元計画を組むことが多かったが、その場限りで学びの再生ができたとしても、次につながらないという課題もあった。

今回は、全5回で「駅の案内」にかかる様々なやりとりについて扱い、繰り返しロールプレイを行った。その結果、これまでよりもターゲットセンテンスの定着率が高くなり、事後に行った生徒アンケートでも、「外国人に道をきかれても自信を持って案内できそう」など前向きな回答が多数であった。また、電光掲示板における英語の読み取りという「図をヒントに読み取りができる活動」を行った結果、生徒は自律的に読み進めることができた。3学期は、情報の読み取りではなく、物語の登場人物の心情の読み取りという、より負荷をかけた「読むこと」を中心とした技能統合型の言語活動を行う。そして、卒業しても自信をもって英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成したい。

1
学
期

『Wonders of Japan』
日本に訪れる外国人旅行者
についての単元

・「聞く-書く」技能統合

2
学
期

『乗り換え案内をしよう』
路線図、電光掲示板における
情報の読み取り

・「聞く-話す」技能統合
・「読む-話す」技能統合

3
学
期

『Why Did Grandpa
Become a Ghost?』物語にお
ける登場人物の 心情の読み取り

・「読む-話す」技能統合